

第70回  
江別市民  
文化祭

# 民謡熱唱大会

令和5年11月12日(日)／えぼあホール

新型コロナウイルスは五類に移行となり四年ぶりに制限が解除されることになり、会場入場者の人数制限、座席間隔、マスクは各自の判断、大きな声の発生等、すべて制限がコロナ禍以前の状況で開催することが出来ました。

今年度の民謡熱唱大会のプログラム内容は従来の各会ごとに午前、午後の二部方式から各会の人数により一名から四名の輪番方式で行いました。

民謡ブロック代表の挨拶には始まり、今年度は澤崎野幌会のリードで出演者全員による開幕(唄入り)演奏で始まり会場の皆様もプログラムに歌詞カードを用意、ご一緒に大きな声で唄っていただき開幕、いよいよ澤崎野幌会の会員から始まり江別民謡緑栄会、渡辺八章会、大麻千鳥会、十一番には民謡舞踊真室川音頭が入るなど多彩に進行、小路流竹豊会は終盤出演、続いてアトラクション一、沢崎野幌会による秋田節・石狩川流れ節の三絃合奏、江別民謡緑栄会による出船音頭・道南ナツト節の三絃合奏が行われました。続いて各会員の発表、二十六番には各

会の尺八伴奏者六名による江差追分本唄(ほんうた)連管、初めての試みでした。次はアトラクション三、渡辺八章会によるさくら吹雪の三絃合奏、アトラクション四、大麻千鳥会による江別やつめうなぎサンバ・江別はればれ音頭を合唱と続



きました。続いて各会の民謡発表と民謡舞踊ドンパン節が入りました。終盤歌唱は各会を代表する方々の発表による江差追分、秋田馬子唄大麻千鳥会、刈干切唄澤崎野幌会、尺八独奏渡辺八章会、道南口説大麻千鳥会、尺八独奏小路流竹豊会と続きました。五十三番演目あどはだり三絃会による三絃合奏、フィナーレはソーラン節、出演者全員参加、会場の皆さんの合唱で終了しました。閉会のご挨拶は大麻千鳥会会長より。

歌唱者の出入の時間の短縮及伴奏者の音合わせの短縮、また、全体の進行時間が約一時間短縮できました。出演者の皆様のご協力により進行の流れが良くなりお客様に大変良かったよとの声もいただきました。

今回、節目となる記念大会での陶芸展は、文化協会会員で千古窯生徒の会十二名、なななかまど陶芸クラブ七名、一般参加で、江別陶芸研究会四名、個人参加一名、合計二十四名。作品数は百四十点以上が出版されました。また、三日間の来場者は、昨年より十%増の五百五十四名が見えになりました。

前回は二グループが参加を取りやめ、新たに二グループが参加されました。陶芸人口は、そこそこあると思いますが、諸般の事情で参加が目減りしているのが現状です。もっと個人が気軽に参加できる方策が課題になると思います。

出展された作品は、皆さんの力作であり、個性の発露が強く感じられました。プロ並みの焼き色表現であったり、ある色にこだわった作品、絵付けの繊細さ、オブジェ化した作品、子供が喜ぶ動物やお雛様など多種多様でした。来場されたお客様

第70回  
江別市民  
文化祭

## 市民陶芸展

令和5年11月3日(金・祝)～5日(日)／野幌公民館

令和五年度の民謡熱唱大会としてのステージのタイトルが、令和六年度から民謡フェスティバルとして開催することに民謡実行委員会が決定されました。江別の民謡文化祭を多くの市民の皆様が新たな気持ちで提供していきたいと思えます。

令和六年(二〇二四年)開催日程は十一月十七日第3週の(日) 入場無料、えぼあホールで行われます。開催時間等詳細は市の広報に文化協会から掲載されますのでご確認くださいと思います。

また、民謡文化発展のため各民謡団体では会員の募集をしております。今後多くの市民の皆様、会員の皆様の御支援御協力をお願い申し上げます

(民謡ブロック代表 加藤 高)

も、「こんな色が出るんだ」「どうやって、こんなに細かい絵が描けるの?」「可愛いから孫に欲しい」などのお声を頂きました。

陶芸の楽しさは、失敗しても、上手くいっても、「唯一無二、世界に一つしかない」ことです。成形している時は、こんな形で、素焼き後は釉薬でこんな色合いで、ゴールイメージを描きつつ、作り出す楽しさがあります。余談ですが、最近では、指の運動、頭の体操になり、健康維持へ活性効果になるとのこと。

最後に、この光彩をご覧になり、粘土いじりをしている皆さん、次回の文化祭にぜひ、

個人で、グループの参加を心よりお待ちしております。作品を前にしての苦労話を、情報交換を楽しみにしています。

(千古窯生徒の会 徳田哲哉)



第70回  
江別市民  
文化祭

茶会 野点artの会

令和5年11月5日(日) / コミュニティセンター

私たち野点artの会は、千古園やセラミックアートセンター、江別市内外の公園などの施設において、主にお茶を通して、会員および市民に、日本の文化芸術に触れる機会、世代を超えた地域住民の交流の場を提供する事を目的として、二〇二一年八月に立ち上がりました。今まで月に一回ずつ、流派を超えた茶道を通して、着物や書道、陶芸などにも親しむ活動を行い、市内外の企業、NPO法人、教育機関とのコラボレーション等もして参りました。今回二〇二三年の江別市民文化祭では、初めて呈茶席をもたせて頂き、江別コミュニティセンターでの素晴らしい菊花展の隣で、野点スタイルの呈茶に挑戦いたしました。テーマは「菊を観て日本を想い、茶を喫して自己を見つめる」。茶道は、仏教思想に基づき大成した精神的儀式であることから、私たち

は江別の自然の美しさに触れながら自分達が自然の一部であることを思い出す茶道を目指して来ました。また一服の茶から自己の心の安らぎや喜びを感じ、内省する時間を皆様にご覧して欲しいという願いから、今回の呈茶席では、お点前はせずに、自然の音源の「a波音楽」を聴きながら、色とりどりの菊とその香りの中で、お茶を楽しんでいただく、そのようなスタイルと致しました。また、伝筆の先生にお願いをして二色使いの短冊を制作していただき、さらにお菓子をお懐紙には、カ

ラフルに秋の季語を自分達で描いたことも新しい試みでした。皆様からは、「今までになく菊を思う存分楽しめた」、「心安らぐ空間だった」、「明るく、未来を感じる茶席だった」というお声をいただき、今後の活動の励みとなりました。

私達は、大人たちが文化を遊び楽しむ姿を子ども達に見せてこそ、文化の継承と発展があると信じておりますので、子どもから大人まで年代を問わず、どなたでも気軽に伝統文化を楽しめる「窓口」であり続けたいと思っております。伝統文化が生活文化になり、現在に生きる文化として繋がっていくことを願って、今後も活動してまいります。さらに、三年目に突入した今年には、江別市の自然の美しさを会員同士で楽しむだけでは



私たち野点artの会は、千古園やセラミックアートセンター、江別市内外の公園などの施設において、主にお茶を通して、会員および市民に、日本の文化芸術に触れる機会、世代を超えた地域住民の交流の場を提供する事を目的として、二〇二一年八月に立ち上がりました。今まで月に一回ずつ、流派を超えた茶道を通して、着物や書道、陶芸などにも親しむ活動を行い、市内外の企業、NPO法人、教育機関とのコラボレーション等もして参りました。今回二〇二三年の江別市民文化祭では、初めて呈茶席をもたせて頂き、江別コミュニティセンターでの素晴らしい菊花展の隣で、野点スタイルの呈茶に挑戦いたしました。テーマは「菊を観て日本を想い、茶を喫して自己を見つめる」。茶道は、仏教思想に基づき大成した精神的儀式であることから、私たち